

東通村原子力発電所安全対策委員会を開催

～安全協定の運用・原子力防災の取組の状況などを報告～

3月21日、東通村防災センターにおいて、東通村原子力発電所安全対策委員会が開催されました。

この委員会は、村内の関係

機関の長等により構成されており、原子力発電所の状況の報告や確認などを行うとともに、ご意見などを伺い、村として、様々な対応をしていくため設置しているものです。

会議では、越善靖夫村長の挨拶の後、村から、東通原子力発電所東北電力1号機の安全協定の運用状況、原子力防災の取組状況や今後の計画、原子力防災訓練の実施状況、緊急被ばく医療体制の検討状況などについて報告をしました。

委員から、安定ヨウ素剤の

事前配布の配布率の向上、避難に備え、村民が準備すべき携帯品等の広報、防護服等の住民への配布などについてご意見等がありました。

また、東北電力(株)及び東京

電力ホールディングス(株)から、それぞれ状況について説明があり、委員から、東北電力1号機の敷地内断層の審査状況、村議会の誘致決議から半世紀にわたり協力してきた立地地域の思いなどについてご意見がありました。

福島第一原子力発電所事故から6年が経過しましたが、東北電力1号機は、原子力規制委員会の新規制基準適合性に係る審査が継続中です。東北電力では、安全対

策工事は平成31年度のできるだけ早い時期の完了を目指し、それ以降の準備が整った段階での再稼働を目指すとして

ます。

また、東京電力1号機は、福島第一原子力発電所の事故への対応を最優先するため、一部の作業を除き、本格工事の開始を見合わせている状況となっています。

一方、国・県・事業者においては、福島第一原発の事故を踏まえ、原子力防災対策や安全対策について、様々な検討が進められています。村としても、これらの状況を踏まえ、今後、村民の安全と安心のため、全力で取り組んでまいります。



越善村長挨拶



会議の風景



東北電力・東京電力から状況説明

東北電力(株) 東通原子力発電所より副教材寄贈

3月23日、東北電力(株)東通原子力発電所 金澤定男所長(写真左)が村庁舎を訪れ、小中学生を対象とした教育副教材を村へ寄贈しました。

同社はこれまで、3月25日の「電気記念日」や10月26日の「原子力の日」にちなみ、環境やエネルギーに関する副教材を数多く寄贈して下さっています。37回目となった今回は、図書80冊と理科実験教材40点が寄贈されました。今回寄贈頂いた副教材も、次世代を担う子供たちが環境やエネルギーについて学び、未来に活躍する人材となるために用いられます。



越善靖夫村長に目録を手渡す金澤所長